

$$\begin{aligned} \text{経済効果} &= \text{直接効果} + \text{間接波及効果} \\ &= \text{直接効果} + \text{一次間接波及効果} + \text{二次間接波及効果} \end{aligned}$$

3. 鳥取環境大学が鳥取県に及ぼす経済効果

本報告では諸データから直接効果を推計し、間接波及効果を推計する。これは直接効果の推計結果をもとに、2005年鳥取県産業連関表（36部門）を用いて産業連関分析をおこなうことで推計される。直接効果と間接波及効果を足し合わせると、すべての経済効果となる。鳥取環境大学の立地に伴う経済効果を表1に示した。

表1 鳥取環境大学の立地に伴う経済効果（生産誘発額・粗付加価値額）

	生産誘発額	粗付加価値額
直接効果 (a)	1,345,958,970	875,550,375
一次間接波及効果 (b)	376,092,686	209,383,423
二次間接波及効果 (c)	340,909,528	220,903,805
経済効果 (a) + (b) + (c)	2,062,960,987	1,305,837,605

鳥取環境大学の立地に伴う経済効果は、一年間に生産誘発額ベースで約20.6億円、付加価値額ベースで約13.1億円と推計される。

4. おわりに

本報告では産業連関分析を用いて鳥取環境大学が一年間に鳥取県にもたらす経済効果を推計した。その結果、鳥取環境大学による経済効果は、生産誘発額ベースで、直接効果が13.5億円、間接波及効果を考慮した経済効果が20.6億円と算出された。経済効果は直接効果の1.53倍であった。また付加価値額ベースでの経済効果は13.1億円であり、これは県内総生産額¹の0.068%に相当する。

試算結果によって明らかになった大学の立地が地域にもたらす経済効果は、大学の有する価値の一部でしかない。大学には金銭的に評価することの難しい価値が多く存在し、それこそが大学の存在意義であるといえる。そのような価値を定量的に評価することが今後の課題であろう。

参考文献

財団法人日本経済研究所（2007）「地方大学が地域に及ぼす経済効果分析 報告書」
高井 亨（2015）「鳥取環境大学の経済効果」鳥取環境大学紀要13、掲載頁未定

¹ 平成23年度の県内総生産額は1兆9608億円である（2005年実質価格）。産業連関表の価格体系も2005年の価格である。ただし本稿では平成24年度（2012年度）の消費額を2005年価格に変換しているわけではない。